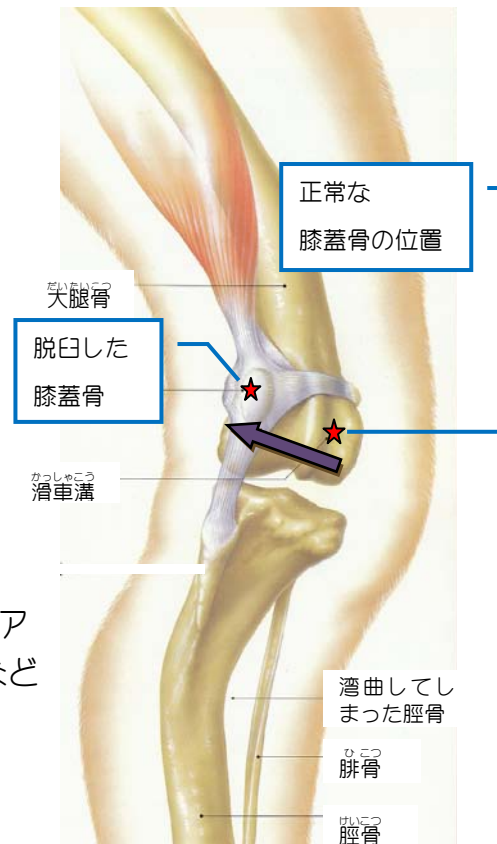


膝蓋骨脱臼

膝蓋骨脱臼とは、いわゆる「膝のおさら」がはずれる疾患で、その多くは小型犬種にみられる先天的な内方脱臼です。膝蓋骨（おさら）は、膝の曲げ伸ばしで滑車溝と呼ばれる溝を上下に動きますが、この溝からはずれて痛みや、肢を浮かすなどの症状がみられる場合があります。

放置すると、骨のS字状の変形、靭帯断裂、他の肢に影響がおこる場合もあります。



先天性

内方脱臼

小型犬種に多い

(ポメラニアン、トイ・プードル、マルチーズ、ヨークシャー・テリア、チワワ、ダックスフンド、柴犬などが好発犬種)

外方脱臼

大型犬種に多い

外傷性

外力による脱臼

交通事故や転落などの外力を受けた場合に脱臼が生じる。多くは片側性である。

咬傷による脱臼

他の犬に咬まれて、脱臼してしまうことがある。

★脱臼の度合い(グレード)は、4段階に分類されています

(膝蓋骨脱臼のグレード・Singletonの分類)

グレードⅠ

膝蓋骨は手で押すと脱臼するが、手を離せば正常位に戻る

グレードⅡ

膝蓋骨は膝を屈曲するか手で押せば脱臼し、膝を伸展するか手で押せば整復する

グレードⅢ

膝蓋骨は常時脱臼したまま、手で押せば整復、手を離せば再脱臼する

グレードⅣ

膝蓋骨は常時脱臼し、手で押ししても整復されない

症状

- ▼一時的な疼痛 (脱臼が生じた時にキャンキャン鳴いたり、肢を浮かす場合がある)
- ▼跛行 (グレードⅠ、Ⅱでは歩様は正常の場合もある)
- ▼グレードⅢ、Ⅳでは、特に両側性の場合、膝関節の屈曲した形状異常を示す
- ▼何の症状も示さないこともある

診断

1. 膝蓋骨の触診
2. X線撮影

治療

- ▼手術：一般的には、若齢(4歳以下)でグレードⅡ以上の場合には手術をした方が良いとされています。(年齢、グレード、症状などにより手術適応が判断します。)
- ▼手術を行わない場合は、進行を遅らせる目的で、サプリメントの投薬などを行います。
- ▼膝にかかる負担を軽減するために、体重管理も大切です。